

(別紙)

I 茶園凍霜害防止対策資料

1 凍霜害防止技術

(1) 茶樹品種の組合せ

茶樹の品種（早生、中生、晩生）を組み合わせることで危険の分散を図るとともに、過去における被害状況や地形等を考慮して造園する。

(2) 敷わらの仕方

幼木園の敷わらは、畦間全面に置くと地面からの放射を妨げ夜間の冷え込みが著しいため、株元だけにしておく。成木園の冬季の敷わらは、春肥施用前に株元に寄せておき、夏肥施用後畦間全面に拡げる。（又は春肥前に畦間から除去して堆肥原料に供する。）

(3) 茶園防霜施設の設置

ア 送風施設

防霜ファンを地上6～7m程度の高さに設置し送風により防止する。

イ 被覆施設

棚式覆架施設やトンネル式施設により、「カンレイシャ」又は「その他化学繊維網」等の被覆資材を使用して防止する。

2 凍霜害被害後の技術対策（4月中～下旬の被害）

(1) 整・せん枝

ア 萌芽期前後の被害 ー 放任

イ 2～3葉期以後の被害 ー 著しい被害の場合は新芽を刈り落とし、小被害なら放任

(2) 施肥

4月に入って「芽出し肥」として速効性窒素10アール当たり10kg内外をすでに施用したものは、改めて追肥を必要としない。

芽出し肥を施用せず、被害の大きいほ場に限り速効性窒素肥料を10アール当たり10kg程度（硫安では2.5袋）施用する。

(3) 害虫防除

被害後は、カンザワハダニの多発を見ることがあるので注意する。

(4) 被害園の摘採

畦の方位により被害差の大きい場合は、摘採期の早晩も大きくなるので二度摘みとする。総体的に再生芽は若芽摘みとして、品質低下をできるだけ防ぐようにする。

II 農作物災害減収判断基準（抜粋）

茶（凍霜害）

（1）第1表 強被害

生育期	損傷程度	被害程度	備考
萌芽期	損傷芽の割合 100%以下	30%未満	萌芽期の被害は、一般的には30%以上の被害程度になるものは少ない。 強被害とは、芯や葉の変色が著しく芯の枯死が損傷芽の50%を超える程度をいう。
芯1葉期	損傷芽の割合 70%未満	30%未満	
	70～100%	30～49	
芯2葉期	損傷芽の割合 50%未満	30%未満	
	50～69%	30～49	
	70～89%	50～69	
	90%以上	70～89	
芯3葉期	損傷芽の割合 30%未満	30%未満	
	30～49%	30～49	
	50～69%	50～69	
	70～89%	70～89	
	90%以上	90～100	
芯4～5葉期	損傷芽の割合 10%未満	30%未満	
	10～29%	30～49	
	30～49%	50～69	
	50～69%	70～89	
	70%以上	90～100	

注1 一番茶に適用する。

2 低温の程度により、凍霜害を受けた芽の被害程度に強弱があるので、被害程度に応じて強被害の場合は第1表を、弱被害の場合は第2表による。

3 芯1葉期、芯2葉期等生育期の判定については別図参照。

（2）第2表 弱被害

生育期	損傷程度	被害程度	備考
芯1葉期	損傷芽の割合 100%以下	30%未満	弱被害とは、芯や葉の変色程度に止まるもので、芯の枯死が損傷芽の50%をこえない程度をいう。
芯2葉期	損傷芽の割合 90%未満	30%未満	
	90%以上	30～49	
芯3葉期	損傷芽の割合 50%未満	30%未満	
	50～69%	30～49	
	70～89%	50～69	
	90%以上	70～89	
芯4～5葉期	損傷芽の割合 20%未満	30%未満	
	20～34%	30～49	
	35～54%	50～69	
	55～69%	70～89	
	70%以上	90～100	

Ⅲ そ の 他

1 気象の観測について

- (1) 気象観測施設（百葉箱）のある所ではその施設を利用すること。
- (2) 百葉箱のない所は次の要領で観測すること。
 - ア 観測点は家屋や樹木から10 m以上離れた所を選ぶこと。
 - イ 温度計の高さは地上1.2 m～1.5 mの高さとする。
 - ウ 観測の時は温度計に手を触れることなく目と直角に目盛りを読むこと。
- (3) 百葉箱を用いず温度計を露出して測った気温は百葉箱内のものより1～2℃低いのが普通である。
- (4) 茶業研究所から連絡があった場合、茶業研究所との気温の差を確認しておくこと。

2 気温の降下状況について

- (1) 気温の降下は、風が弱く晴天であれば日没後の午後6時頃は1時間に2℃くらい、午後8時頃から早朝にかけては1時間に0.8℃くらいである。

従って、平均では午後6時の気温が百葉箱内で12℃以下、午後10時の気温が6℃以下、午前2時の気温が4℃以下に降下し、静穏で晴天が続いていればほとんど降霜が起こる。
- (2) 百葉箱内の気温が2℃以下に降ると、接地最低気温はさらに5～6℃低く、氷点下3～4℃以下となることが多い。